

【ご協力お願いします】ボランティア募集のお知らせ

寺院の清掃活動にご協力して下さるボランティアを募集しています。建物の老朽化とともに駐車場の整備やフェンス当たりの手入れが必要となってきました。

寺院にはいくつかの清掃や整備に必要な工具がありますが、もしご自宅に軍手やスコップなどありましたらご持参ください。お時間の許される方がいましたらご協力下さると幸いです。

ご質問のある方はメンテナンス委員の玉置マイケル

(michael.m.tamaki@gmail.com)までお願い致します。



法要時間変更のお知らせ！

日本語法要の時間変更

多くのご意見をいただき、今期より毎月第一日曜日の祥月法要が英語と日本語で時間を別けてお勤めすることとなりました。各言語での法要時間は以下の通りとなります。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

英語法要：午前11時より

日本語法要：午後1時より



2019年度バザーに向けて

今年の寺院バザー(11月9日土曜)にむけて使わなくなったジュエリーやアクセサリーを集めています。

不要もしくは使わなくなった(カバン・帽子・ベルト・スカーフ・ネクタイピン)などがありましたら、寺院の事務所までお持ちいただけると幸いです。

ご質問のある方は、浅野ジュン(asanojune@gmail.com)までお願い致します。



日本製のもの受け取ります

両親からいただいた物やお土産で貰った物など、各ご家庭にある日本製の物で使わなくなったものがありましたら、当寺院の事務所まで問い合わせ下さい。着物やこけし、茶わん、扇子など一度使ったものや押入れの奥に追いやられた物でも大歓迎です。いただきましたものは当寺院での『ジャパニセル』にて販売し、来年の「トロント仏教会建立75周年」に向けての資金とさせていただきます。



昨今、英語が世界共通語と言われるなか、トロント仏教会は日本語と英語の両言語を両立させてため様々な取り組みをしてきました。それは英語から日本語に訳すものだけに留まらず、日本からのお知らせを英語に翻訳する作業も含まれます。

そしてこの度、数年に渡り時報である佛心を中心に翻訳にも尽力をして下さった竹田様と肥後様に仏教会から感謝の意を込めて御礼申し上げます。トロント仏教会の護持発展のためにご協力を下さり誠にありがとうございました。

只今トロント仏教会では、日英の両語が分かる方のボランティアを募集しております。主な活動としましては、月に一度の寺報に掲載されるお知らせ等の翻訳活動です。もしご興味のある方がいらっしゃいましたら仏教会までお問い合わせ下さい。

ね。お母さんも仏様と一緒にいるよ」と子ども達に残されていきました。

その子たちが阿弥陀如来に手を合わせ、今まで一緒にお母さんと称えてきた「南無阿弥陀仏」が口からこぼれるとき、それは目には見えなくとも、確かに自分の母親が残してくれた阿弥陀如来の願いであります。仏様が「生きとし生けるものが仏になることが出来ないのであれば、私も仏にならない」という願いを建てられ自分の母親も仏様にならせていただいた。だからこそ、「南無阿弥陀仏」というお念仏が、そのときの家族にもそして今の私にも届いていると言えます。

私たちのこの眼では、阿弥陀様のおはたらしの光を目にすることは難しいことかもしれない。しかし、常に私たちを照らして下さる阿弥陀様は「南無阿弥陀仏」という文字となり「貴方は決して独りではない。いや、決して独りにさせはしない。」と呼びかけて下さいます。

その出遇いを知ったとき、私は口から「南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏」と出さずにはいられません。

トロント仏教会 駐在僧侶 大内祐真



キャンプ ルンビニ

子供たちには参加者たちのこと、そこで学んだこと、そしてこのキャンプが皆のことをいつでも受け入れてくれる場所であることを忘れないでいてほしいと願っています。

現在キャンプを支えているカウンセラーの方たちは皆、かつては若いただの参加者であり、交友関係を深め、楽しみ、そして仏教を面白い形で学ぶために集まっていた。毎年内容が変わるため、参加したことのある人でも翌年の参加にワクワクするものになっています。ただ今年は例年より仏教を学ぶことに焦点が当てられました。我々が仏教を学ぶ間、今年はそばにヨシ先生とジョアン先生に来てくれてとても助けられました。キャンパーであれカウンセラーであれ保護者であれ、年ごとに学びが深くなっていくことに気が付くことでしょう。そして学びに上限などないこともわかってくるはずですよ。

これを読んでいる皆さんにとって「南無阿弥陀仏」はどのような意味をもっていますか？法話の始まりを告げる鐘の後、お経を皆で読んだ後、浄土真宗の生活信条を読んだ後、法話の終わりなど、私たちはいつもこの言葉を口にしています。皆で囲む食事の前後にも感謝を込めて「南無阿弥陀仏」と言っています。でもなぜでしょうか？今年のキャンプではその謎が明らかになりました。

ここに書く答えは簡略化されたもので、すべての状況に当てはまるわけではありませんが、キャンプとの相乗効果もあり、将来私たちがそれを言うたびに美しい気持ちにさせてくれるほどのものでした。実は「南無阿弥陀仏」という言葉は、すべての人、

すべてのものの、すべての瞬間への感謝を表していたのです。あなたは先人たち、今を生きている人たち、将来を担う人たちがすべてに思いを馳せることができますか？消えてしまったものの、いま形のあるもの、これから生まれてくるものすべてを思い描くことはできますか？すべての事象、すべての選択、間違い、事故、誕生、そして死。すべてあなたがここに存在する因果のために起こりました。誰が、何が、いつ、どこで、どのように存在したのかを正確に把握することはできないので、それらすべての総称(如来からの恵み)に感謝を送る言葉が「南無阿弥陀仏」なのです。私に、あなたに、あなたの両親に、そして仏様に感謝をしているのです。

キャンプで子供(8〜15歳)、カウンセラー(20〜29歳)、成人(35〜60歳)が皆で議論したことをあなたは今学んだことになりました。キャンプに来るたびに新しいことを学んでいきます。皆さんには仏の教えを研究・勉強し、実践することをお勧めします。そして、このキャンプの伝統を形作ってくれたすべての人へ、今年私たちのキャンプを非常に特別なものにしてくれた人々へ、そしてこれから参加するであろうすべての人々へ、ここに感謝を表します。

皆さんにまたお会いできる日を楽しみにしています。南無阿弥陀仏

第2班カウンセラー

ミカ玉置

佛心

二〇一九年十月号

浄土真宗 本願寺派



母親が残してくれた

「まんまんちゃん」

煩惱にまさこさえられて

撰取の光明みざれども

大悲もおぬきことなくて

つねにわが身をてらすなり

私の眼というのは、煩惱によって阿弥陀如来のおはたらきである光が見えないでいる。しかし、仏様の大慈悲は怠ることなく常に私の身を照らして下さっている。これは親鸞聖人が源信和尚という高僧の教えから阿弥陀如来のおはたらきを讃えられた御和讃です。

阿弥陀如来がまだ法蔵という菩薩様であったとき、ある願いを建てられました。それは「もし、念仏申す生きとし生けるものが仏になることが出来ないのであれば、菩薩である私も仏にならない。」というものでした。法蔵菩薩は、五功兆載という長い時間をかけてその願いを成就し、その願いは光として私た

ちに届けられている。私たちは煩惱というものにこの眼をおさえられて、その光が見えないでいますが、その阿弥陀如来の大慈悲の光明は常に私たちを照らしてくれていると親鸞聖人は御和讃の中にしたためられました。

実際にこの目に見えないものなんて信じることは出来ないと思われる方もいらっしゃるでしょう。やはり「百聞は一見に如かず」と言われるように、一度この目で見たものは百回以上も聞いたものより、すぐ懐に入って納得できるものです。

私自身お寺に生まれて仏様のいろんな話を聞かせていただきましたが、それでも阿弥陀如来のおはたらきというものがあまり実感できず分からないでいました。そんなある日、ある先生から寂しくも心強いお話を聞かせていただきました。そのお話とは、先生のお寺の御門徒さんであった夫婦と3人の子どもたちのお話しでした。

その家族の月参りをしていた先生は、毎月その家族全員と一緒に勤めをしていたそうです。しかしある日、いつもいるはずの母親がいない。「たまたま忙しくていないのかな」と思っていたが、来月もそのまた来月もない。旦那さんによくよく話を聞いてみますと、お母さんは病気になる入院をしていたそうです。しかも、もうそんなに長くないと。

それから何ヶ月間が経ち、お母さんの最後の日になるかもしれないという時がとうとう来てしまいました。そのとき「お坊さんも来て下さい」との声がかかり、病室には、お父さんと幼い3人の子ども達

がいきました。そして、その横には息が小さくなってお母さんがいました。

子どもたちもお母さんとの最後のお別れだと理解したのでしよう。涙が止まらずわんわん泣きます。もつと可愛がつてもらいたかったし、もつと自分たちの話を聞いて欲しかった。そんな気持ちが抑えきれなかったのでしょうか。それが叶わなくなる現実がもうすぐそこまで迫っている。こんな悔しく悲しく寂しいことはありません。

病室が子ども達の泣き声で埋め尽くされたとき、お母さんが小さな声で、その子どもたちの名前を一人ずつゆっくりと呼んだそうです。そして一言、「寂しくなったから、まんまんちゃんに手を合わせ“南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏”。いつでも、お母さんは仏様と一緒に3人のすぐそばにいるよ。」と。

最も寂しかったのはお母さんだったでしょう。我が子をもつと可愛がりたかったし、もつと話を聞きたかった。一緒に料理をしたり、縫い物をしたり、もつと多くのことを教えてあげたかった。それと同時に母親の中には心配事も出てきます。学校で友達と仲良くできるだろうか。好き嫌いなくご飯を食べてくれるだろうか。お父さんの言うことを聞いてくれるだろうか。そして、こんなに寂しい思いをさせて大丈夫だろうか、と。

いろんな心配と不安そして寂しさが交錯するとき、お母さんは一言「まんまんちゃんに手を合わせて、南無阿弥陀仏を称えて